

Q26 辺野古埋立てを巡る県民投票の結果を教えてください。

A

沖縄では、平成25年(2013年)の辺野古埋立承認後に行われた2度の知事選挙や、衆参議員選挙など一連の選挙でも、辺野古反対を掲げる候補者が当選していましたが、政府は、「選挙は様々な施策で各候補の主張が行われた結果である」として、工事を強行していました。

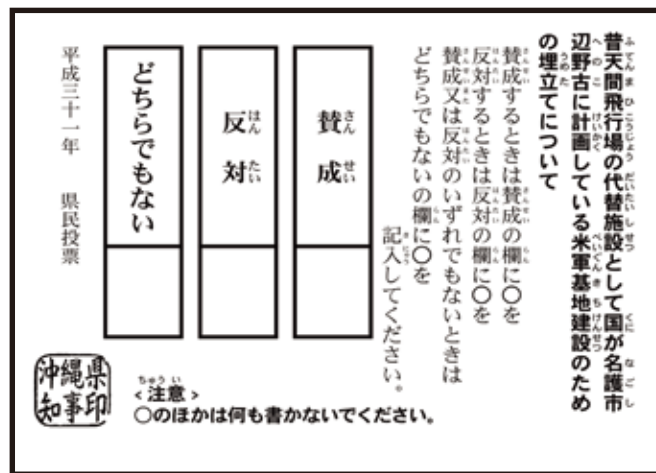
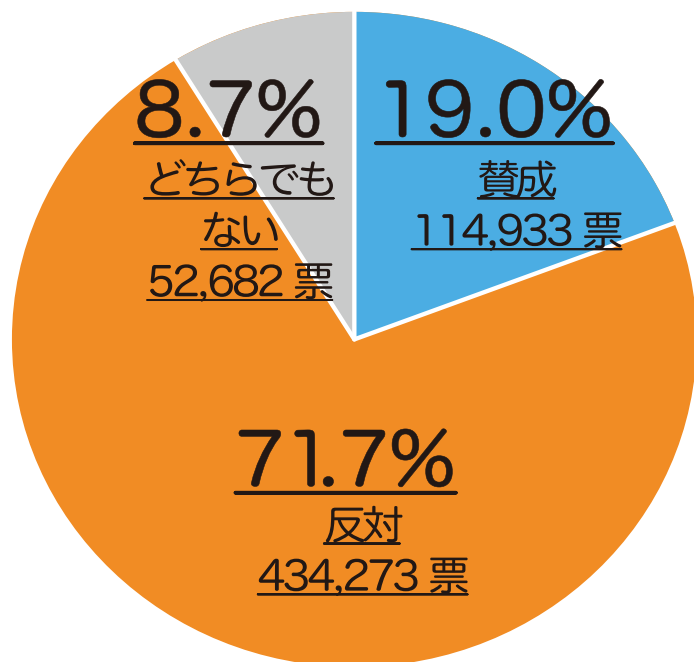
そのため、県民の中から、純粋な民意を示すには、一つの争点に絞って、住民の意思を問うべきであるとの声が上がリ、署名活動が行われ、地方自治法に基づく直接請求を受けて県条例が制定され、平成31年2月24日に普天間飛行場の代替施設としての辺野古埋立てについて県民投票が実施されました。

その結果、投票率は52.48%となり、投票総数の71.7%、43万4,273人の圧倒的多数の方が辺野古埋立てに反対の意思を示されました。辺野古埋立てに絞った民意が初めて明確に示されたことは大変重要な意義があります。

沖縄県は日米両政府に結果を通知するとともに、辺野古移設断念と対話による解決を求めましたが、日米両政府ともに「辺野古が唯一の解決策」との姿勢を変えず、県民の思いを顧みることなく工事が強行されています。

沖縄県としては、日米両政府は、これまで明確に示されてきた辺野古移設に反対の民意に真摯に向き合い、工事を中止して対話に応じるべきであると考えています。

辺野古米軍基地建設のための埋立ての賛否を問う県民投票



県民投票用紙

- 賛成
- 反対
- どちらでもない

※左の図は無効投票の数(0.6%、3,497票)を省略して作成したものです。



朝日新聞社提供

署名活動の様子



朝日新聞社提供

県民投票の様子



中目新聞社提供

玉城知事から安倍内閣総理大臣への県民投票結果の手交